

つくば市
ぶんかざいてんじしせつ
文化財展示施設
マップ



② 出土文化財管理センター
しゅつど ぶんかざい かんり
ひらさわ かんが いせき れきし

③ 平沢官衙遺跡歴史ひろば

出土文化財管理センター
平沢官衙遺跡
北条日向廃寺跡
北条大池
筑波総合体育館
筑波高校
市民ホールつくばね
GS
北条新田
秀峰筑波義務教育学校

【交通案内】
◆つくばエクスプレス (TX)：「つくば駅」から、つくバス「小田シャトル」乗車、約44分、「大池・平沢官衙入口」下車、徒歩約5分(官衙)・15分(出文)。

④ 小田城跡歴史ひろば
おだじょうあとれきし

小田城跡案内所
小田城跡遺構復元広場
小田中野
旧小田小学校
小田保育所
筑波山麓小田
宝篋山小田休憩所
小田十字路

【交通案内】
◆つくばエクスプレス (TX)：「つくば駅」から、つくバス「小田シャトル」乗車、約35分、「小田東部」・「小田中部」下車、徒歩約5分。
◆JR常磐線：「土浦駅」西口から、関東鉄道バス筑波山行・下妻駅行に乗り、約35分、「小田」下車、徒歩約10分。

① 桜歴史民俗資料館
さくられきし ぶんぞく しりょうかん

桜歴史民俗資料館
つくばセンターバスターミナル
つくば駅
つくばエクスプレス
土浦学園線
学園東
花室
至土浦

【交通案内】
◆つくばエクスプレス (TX)：「つくば駅」から、つくバス「小田シャトル」乗車、約7分、「桜窓口センター」下車、徒歩約1分。

⑤ 谷田部郷土資料館
やたべきょうど しりょうかん

谷田部郷土資料館
谷田部診療所前
上横場
谷田部小学校
谷田部総合体育館
市民ホールやたべ

【交通案内】
◆つくばエクスプレス (TX)：「みどりの駅」から、つくバス「自由ヶ丘」シャトル乗車、約7分、「谷田部窓口センター」下車、徒歩約3分。



① 桜歴史民俗資料館

みどころ：旧石器時代・縄文時代・近代
きゅうせきせきじだい じょうもんじだい きんだい
桜地区の考古資料、民具等を展示しています。ナウマンゾウの化石、縄文土器や土偶、県指定文化財「古来の板碑」、農作業や養蚕などに使われていた多くの民具などを御覧いただけます。

所在地：茨城県つくば市流星台 61-1 (桜総合体育館隣)
電話：029-857-6409 開館時間：午前9時～午後4時30分
休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始(12月28日～1月4日)
入館料：無料

かみざかいあさひだいかいづか じょうもんとき
上境旭台貝塚の縄文土器

ふるく いたび
「古来の板碑」

② 出土文化財管理センター

みどころ：古墳時代
こふんじだい
市内の遺跡発掘調査による出土品を整理・保管し、一部を展示しています。北条中台古墳群の埴輪や島名熊の山遺跡の須恵器大甕、小泉館跡の陶磁器などを御覧いただけます。

所在地：茨城県つくば市平沢 81 電話：029-867-4757
開館時間：午前9時～午後4時30分
休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)
入館料：無料

ほうじょうなかだいこふんぐん はにわ
北条中台古墳群の埴輪

③ 平沢官衙遺跡歴史ひろば

みどころ：奈良・平安時代
なら へいあんじだい
平沢官衙遺跡は、奈良・平安時代の常陸国筑波郡の郡役所跡と考えられ、昭和55年に国の史跡指定を受けました。校倉、土倉、板倉の3棟を復元して古代空間を再現し、案内所では史跡の映像を御覧いただけます。

所在地：茨城県つくば市平沢 353 電話：029-867-5841
開館時間：午前9時～午後4時30分
休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始(12月28日～1月4日)
入館料：無料
※遺構復元広場(歴史的建造物等復元ゾーンを除く)は常時開放しています。

ひらさわかんがいせき れきし ふくげんたてもの
平沢官衙遺跡歴史ひろば：復元建物

④ 小田城跡歴史ひろば

みどころ：中世
ちゆうせい
小田城跡は、鎌倉から戦国時代まで、常陸国南部で最大の勢力を誇った小田氏の居城跡で、昭和10年に国の史跡指定を受けました。堀と土塁に囲まれた本丸空間内に池などを復元したほか、小田氏と小田城跡について学べる案内所も設けています。

所在地：茨城県つくば市小田 2377 電話：029-867-4070
開所時間：午前9時～午後4時30分
休所日：月曜日、祝日の翌日、年末年始(12月28日～1月4日)
入館料：無料
※遺構復元広場(手洗所を除く)は常時開放しています。

おだじょうあとれきし ふくげんひかしけ
小田城跡歴史ひろば：復元東池

⑤ 谷田部郷土資料館

みどころ：近世
きんせい
谷田部地区の出土品や、谷田部落資料を展示し、古民家の屋内も再現しています。なかでも、江戸時代の発明家「飯塚伊賀七」が製作した木製和時計の実物や復元品などが注目です。

所在地：茨城県つくば市谷田部 4774-18 (谷田部交流センター3階)
電話：029-836-0139 開館時間：午前10時～午後4時
休館日：月曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)
入館料：無料

ふるくもんとき
復元木製和時計

歴史年表とつくば市の文化財

年代	時代	つくば市のおもな文化財 (見学できるもの中心)	
約4万年前	原始	花室川の ナウマンゾウ化石 桜歴史民俗資料館 ：大陸と陸続きであった氷河時代に、(現在の) 日本列島へやってきました。	
約12000年前		上境旭台貝塚の ミミズク土偶 桜歴史民俗資料館 ：魔よけや食物の豊かさを祈るのに使われたとされる人形。ほとんど壊れずに見つかっている点は、全国的にも珍しいです。	
約2400年前		玉取向山遺跡などの 弥生土器 出土文化財管理センター ：現在の茨城県内の土器には縄目や波の模様、でっぱりがいたりします。	
約1700年前	古代	巨大な前方後円墳の 沼田八幡塚古墳 県指定 ：桜川中・下流域最大で、現在のつくば市の南方まで治めた豪族の墓と考えられます。	
7世紀		律令制度のもとで置かれた筑波郡の役所跡 平沢官衙遺跡 国指定 ：歴史公園として、正倉(米倉)跡の高床倉庫3棟や大溝を実物大復元しています。	
8世紀		平等院鳳凰堂と同じつくりの 北条日向廃寺跡 市指定 ：浄土信仰のもと、常陸平氏の多気氏により建てられたとされる阿弥陀堂跡です。	
9世紀		約400年間続いた平城跡 小田城跡 国指定 ：中世の常陸南部に勢力をほった小田氏の居城跡。本丸の堀や土塁、池などを復元して、一部が歴史公園になっています。	
10世紀		鎌倉	中世の大寺院跡 三村山極楽寺遺跡群と石造物 県指定 市指定 ：小田氏の保護のもと、多くの建物が建ち並んでいた宝篋山麓の寺院跡。巨大な石造物がいまも残ります。鎌倉時代には忍性がここで布教しました。
11世紀			古来の 阿弥陀三尊像板碑 県指定 桜歴史民俗資料館 ：父親の13回忌の文永9年(1272)に造られた、珍しい秩父産緑泥片岩製の板碑です。
12世紀			小田家重臣・菅谷氏の居城跡 手子生城跡 市指定 ：発掘調査で3つの区画に分かれることや堀のようすがわかりました。
13世紀		中世	「いざなぎ・いざなみ両神」を仰ぐ 筑波山神社の建造物 県指定 ：神橋、春日・日枝・巖島各神社とその本殿など、日光東照宮と似た江戸時代はじめのきらびやかな建造物が残ります。江戸時代おわりの随神門は市指定建造物です。
14世紀			化政文化の広がりがかえる 和時計と五角堂 県指定 谷田部郷土資料館他 ：谷田部新町の名主だった飯塚伊賀七は、谷田部藩領内の測量、和時計や器械の製作などを行い(谷田部郷土資料館で展示)、「からくり伊賀」と呼ばれました。建てるのが難しい平面が五角形の建物の五角堂がいまも残ります。
15世紀			明治維新の2年間だけあった 若森県庁跡 市指定 ：明治2年(1869)、つくば市や土浦市、桜川市などにあった幕領や旗本領は若森県となり、県庁が市内の若森に置かれました。現在は私有地で、建物は残っていません。
16世紀	土浦から岩瀬まで走っていた 筑波鉄道跡 ：大正7年(1918)開業、昭和62年(1987)廃線。旅客だけでなく物資輸送でも活躍。現在、跡地はりんりんロードで、常陸小田駅跡に小田城跡案内所があります。		
17世紀	近世	つくばにあった軍の飛行場 西筑波陸軍飛行場・谷田部海軍航空基地跡 ：作谷・観音台に陸・海軍の飛行場がありました。滑走路など施設は残っていません。	
18世紀		江戸	明治維新の2年間だけあった 若森県庁跡 市指定 ：明治2年(1869)、つくば市や土浦市、桜川市などにあった幕領や旗本領は若森県となり、県庁が市内の若森に置かれました。現在は私有地で、建物は残っていません。
19世紀			土浦から岩瀬まで走っていた 筑波鉄道跡 ：大正7年(1918)開業、昭和62年(1987)廃線。旅客だけでなく物資輸送でも活躍。現在、跡地はりんりんロードで、常陸小田駅跡に小田城跡案内所があります。
20世紀	近代	つくばにあった軍の飛行場 西筑波陸軍飛行場・谷田部海軍航空基地跡 ：作谷・観音台に陸・海軍の飛行場がありました。滑走路など施設は残っていません。	
21世紀		つくばにあった軍の飛行場 西筑波陸軍飛行場・谷田部海軍航空基地跡 ：作谷・観音台に陸・海軍の飛行場がありました。滑走路など施設は残っていません。	

各時代のあらし

<原始1：旧石器時代> 土器が作られ始める前の時代を旧石器時代といいます。3万5千年前頃には、日本列島に広く人が暮らし始め、市内でも多くの遺跡が見つかっています。気候が寒冷で、当時の地形や植生は現在と大きく異なっていて、ナウマンゾウなどの大型獣も生息していました。人々は家族を中心とした集団で移動生活をしながら、狩りや木の実などを採って暮らしていました。
主な文化財：東岡中原遺跡、下河原崎谷中台遺跡、手代木田向西遺跡、下大井遺跡



ナウマンゾウ化石

<原始2：縄文時代> 1万2千年前頃、日本列島では土器が作られ始め、やがて定住生活が営まれました。人々はムラを築き、狩りや木の実などの採集、漁撈や簡単な栽培などをしながら暮らしていました。この時代を縄文時代といい、市内でもムラや貝塚、陥し穴などが見つかっています。人々は広く交易を行っていたようで、黒曜石やヒスイ、アスファルトなど、遠方からの品々も見つかっています。
主な文化財：北条中台遺跡、上境旭台貝塚、下広岡遺跡、根崎遺跡



ミミズク土偶

<古代1：弥生時代> 紀元前4世紀頃、日本列島に稲作が伝わって社会のしくみが変わり、支配者(豪族)が現われ、小さな国々が生まれ、さらに連合していきます。この時代を弥生時代といい、茨城県内では見つかっている遺跡が少なく、後半頃のムラの跡がほとんどです。弥生時代の終わり頃になると、人々の移動が活発になったようで、南関東地方の特徴を持つ土器が見つかることもあります。
主な文化財：神郡条里遺跡、水守遺跡、玉取向山遺跡、苅間六十目遺跡



北条中台遺跡の弥生土器

<古代2：古墳時代> 3世紀後半には近畿地方に大和政権が生まれ、王や豪族をほうむるために、全国で古墳が造られるようになりました。この時代を古墳時代といいます。つくば市内には400基以上の古墳があり、筑波山麓や桜川下流域、東谷田川流域などに多く分布しています。これらの地域には豪族がいたと考えられ、梶内山遺跡ではその館跡も見つかっています。ムラの数も増え、特に後半には大きなムラも現れます。渡来人が広めたカマド、ロクロや窯、騎馬の風習なども伝わりました。
主な文化財：上野古屋敷遺跡、島名熊の山遺跡、下横場古墳群、上境滝の台古墳群



沼田八幡塚古墳

<古代3：飛鳥・奈良・平安時代> 7世紀には、律令にもとづく政治のしくみがつくり、地方制度も定められました。全国は約60の国に分けられ、国はさらに郡に分けられて郡役所が置かれ、郷や里とよばれた複数のムラを治めていました。市内は北半が筑波郡に、南半が河内郡に含まれ、金田官衙遺跡(国指定)が河内郡役所と考えられます。9世紀後半になると律令政治がくずれ始め、10世紀には武士が力を持つようになります。平将門の乱をおさめた平氏の一部は都へ出て清盛などの祖となり、一部は多気氏として、水守や北条に拠点を置いて栄えました。
主な文化財：平沢官衙遺跡、金田官衙遺跡、東岡中原遺跡、島名熊の山遺跡



北条日向廃寺跡(復元)

<中世> 平安時代の終わり頃から戦国時代までを中世といいます。鎌倉時代には、源頼朝の重臣であった八田知家が常陸国の守護になり、多気氏を追い落として力を持ちました。知家の子孫は小田城に館を構え、小田氏を名乗りました。小田氏は、数々の権力争いや戦乱に巻き込まれながらも、戦国時代まで茨城県南部で勢力を保ち続けました。しかし、15世紀後半になると、上杉氏や後北条氏による関東地方をめぐる争いの中で、佐竹氏らに小田城を奪われてしまいました。市内には、このような動きを示す館跡や城跡などが数多く残ります。
主な文化財：小田城跡、三村山極楽寺遺跡群、島名前野東遺跡、長峰城跡



手子生城跡

<近世> 安土・桃山時代から江戸時代までを近世といいます。市内は江戸から近かったため、江戸時代にはその多くが幕府や旗本の領地でしたが、谷田部地区の大半は谷田部藩領で、栃木県茂木町などの領地とともに、外様大名である細川氏が治めていました。江戸時代には水運や街道が整備されて交通が発達し、後半になると庶民にまで文化が広がり、市内でも長島尉信、広瀬周伯・周度、飯塚伊賀七などの学者が活躍しました。一方、筑波山は江戸幕府の信仰を受け、寺社の建築や再建がなされて、門前町はにぎわいました。
主な文化財：谷田部陣屋跡、五角堂、筑波山神社、上置丸古屋敷遺跡



谷田部陣屋の玄関(移設)

<近代> 江戸時代が終わり、第二次世界大戦が終結するまでを近代といいます。明治時代に入って設けられた若森県は、明治4年(1871)の廃藩置県で新治県となり、さらに明治8年(1875)に茨城県に統合されました。明治から大正にかけては各地に鉄道が敷かれ、大正7年(1918)には筑波鉄道が開通しました。昭和になって、中国での戦争が拡大すると、筑波山周辺に陸海軍の航空基地・飛行場などが多く建設され、市内にも2カ所置かれました。
主な文化財：若森県庁跡、太政官布告高札場



谷田部航空基地の練習機

<現代> 昭和38年(1963)に研究学園都市の筑波建設が閣議了解され、昭和60年(1985)の国際科学技術博覧会(つくば万博)開催を経て、大穂町・豊里町・谷田部町・桜村が昭和62年(1987)に合併し、つくば市が誕生。翌年には筑波町が入り、さらに平成14年(2002)に基崎町が加わって、現在のつくば市となりました。平成17年(2005)にはつくばエクスプレスが開通しました。